

タイトル「2018年度 教養科目シラバス」、フォルダ「2018年度 教養科目シラバス-サテライト科目」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	熊野郷土学C		
担当教員	足立 基浩 長廣 利崇 此松 昌彦 中島 敦司 平田 隆行 中串 孝志		
対象学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	時間外	単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考	全学部・全学年 実施場所:新宮会場(新宮市)		
科目名(英語表記)	Kumano hometown study C		
授業の概要・ねらい	「熊野郷土学C」では、熊野郷土学A・Bでは地域資源として自然、文化、歴史を学び、地域情報の発信や地域経営という観点を学んだ。Cでは地域での経済史や災害史から地域の人々の生活を学び、さらに自然資源を利用したエネルギーの利用や将来への可能性について学ぶ。最後に環境保全と持続可能性を考慮するエコツーリズムの可能性について学びます。		
授業計画	<p>※記載の内容は変更することもあります。</p> <p>第1回 6月23日「水と住まい、熊野にみる災害文化」システム工学部平田隆行 豪雨、台風、津波浸水を乗り越えて、熊野の暮らしには、力強い自然と共に住まうための知恵が息づいています。建物の形や地形条件、気候条件などを読み込んで「水と住まう」災害文化の意義を考えます。そのうえで、私たちは次の災害にいかに対応するのかを考えます。</p> <p>第2回 7月7日「熊野の鉱山の歴史」経済学部長廣利崇(ゲスト講師和歌山大学附属中学校山口康平...入鹿の炭鉱労働者の生活について)。熊野の炭鉱と銅山の歴史について概説します。また炭鉱の採掘方法などの技術史や労働者の生活についても紹介します。</p> <p>第3回 7月21日「国内、世界を結ぶジオパークネットワーク」観光学部中串先生、ゲスト講師未定(予定) ジオパークネットワークとは過去の災害(地球史)を学ぶフィールドミュージアムとしての役割を持ち住民自ら後世に伝える役割も担っている。このネットワークの有事に助け合う役割を紹介します。</p> <p>第4回 7月28日「自然資源の地産地消による地域の自立」システム工学部中島敦司 熊野は海に迫る山間地からなりませんが、地域環境として豊富な雨水、豊富な森林資源があります。この環境で自立したエネルギーを作ることができるでしょうか。木質バイオマス、小水力発電などを含めて考えていきます。</p> <p>第5回 8月4日「南紀地区 中心市街地の再生 商店街は甦るのか」経済学部足立基浩 これまで、田辺市や新宮市で中心市街地の活性化に関わってきました。熊野地域の再生の方向性として「商店街観光」を考えます。</p> <p>第6回 8月25日「エコツーリズムと持続可能な地域づくり」教育学部此松昌彦、南紀熊野サテライト客員教授山田桂一郎 地域の独自性とその活用を考え、次代の地域経営のあり方を持続可能な視点から考えます。</p>		
到達目標	紀伊半島の産業について考え、自らのことばで語り、それらの興味に基づいて、自ら文献等を調べることができる。		
成績評価の方法	出席状況と議論への参加、授業態度やレポートなど総合的に評価します。		
教科書	特に定めません。基本的には適宜、講義ごとに資料を配布します。		
参考書・参考文献	『観光立国の正体』藻谷浩介、山田桂一郎著 新潮新書 『わかやまを学ぶ紀州地域学初歩の初歩』東悦子、藤田和史編 清文堂		
履修上の注意・メッセージ	基礎知識がなくても理解できるように授業を構成しますが各自でわかりやすい入門書などを読んで理解を深めるようにしてください。講義は1回完結です。郷土の地形地質が地域の暮らしにどうつながるのか考えてみてください。		
履修する上で必要な事項	特になし		
受講を推奨する関連科目	後期の熊野郷土学Dも関連するので、履修が望ましい		
授業時間外学修についての指示	本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行ってください。さらに、授業内容に関連する課題に関する調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学習を求めます。		
その他連絡事項	第1回 6月23日(土)13:00~17:00 第2回 7月 7日(土)13:00~17:00 第3回 7月21日(土)13:00~17:00 第4回 7月28日(土)13:00~17:00 第5回 8月 4日(土)13:00~17:00 第6回 8月25日(土)13:00~17:00		